

令和4年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会（高知大会）

全国高等学校体育連盟テニス専門部
高知県実行委員会テニス競技

I. 大会概要

1. 大会日程

- 7月25日（月） 9:00～ 公式練習【会場】春野総合運動公園、東部総合運動場
26日（火） 9:00～ 公式練習【会場】春野総合運動公園、東部総合運動場
27日（水） 13:30～14:30 監督連絡会 【会場】高知県立県民文化ホール
15:30～16:30 開会式
28日（木） 9:00～ 団体戦（1回戦・2回戦）
29日（金） 9:00～ 団体戦（3回戦・準々決勝）
30日（土） 9:00～ 団体戦（準決勝、決勝）
31日（日） 9:00～ 個人戦（男子シングルス1回戦～4回戦、女子ダブルス1回戦～準々決勝）
8月1日（月） 9:00～ 個人戦（男子ダブルス1回戦～準々決勝、女子シングルス1回戦～4回戦）
2日（火） 9:00～ 個人戦（男子/女子シングルス・ダブルスの準決勝まで）
3日（水） 9:00～ 個人戦（男子/女子シングルス・ダブルス決勝）

2. 参加人数（最大/1日）

団体戦：選手 505人 個人戦シングルス：選手 256人 個人戦ダブルス：選手 256人
登録選手以外の生徒：約 300人 競技役員：約 160人 補助員：約 200人

II. 基本的な考え方

1. 大会運営について

- ① 選手・役員等をはじめ大会関係者全員の安全・安心の確保を最優先事項とする。
- ② 大会実施の可否、実施時における応援者及び観客への対応等重要事案については、「※新型コロナウイルス感染拡大防止対策会議」および全国高等学校体育連盟の決定に従うこと。
- ③ 競技別の開会式・閉会式及び諸会議等については感染拡大防止の観点から、必要最小限の規模での実施、あるいは中止を検討する。

2. 入場について

会場の収容人数などに鑑み、登録選手・監督・引率責任者以外については、以下のような入場を行う。

- ① 事前健康チェックアプリをダウンロードし、必要事項を入力、送信。
- ② 入場許可証が返信されてくるので、それを提示して、選手・監督はIDネックホルダーを受け取り、入場。一般入場者等は入場許可ネックホルダーを受け取り、入場。
- ③ 入力内容に確認事項がある場合は、養護教諭等で聞き取り、入場判断をする。

III. 感染拡大防止策

1. 会場ごとの感染拡大防止策（見取り図参照）

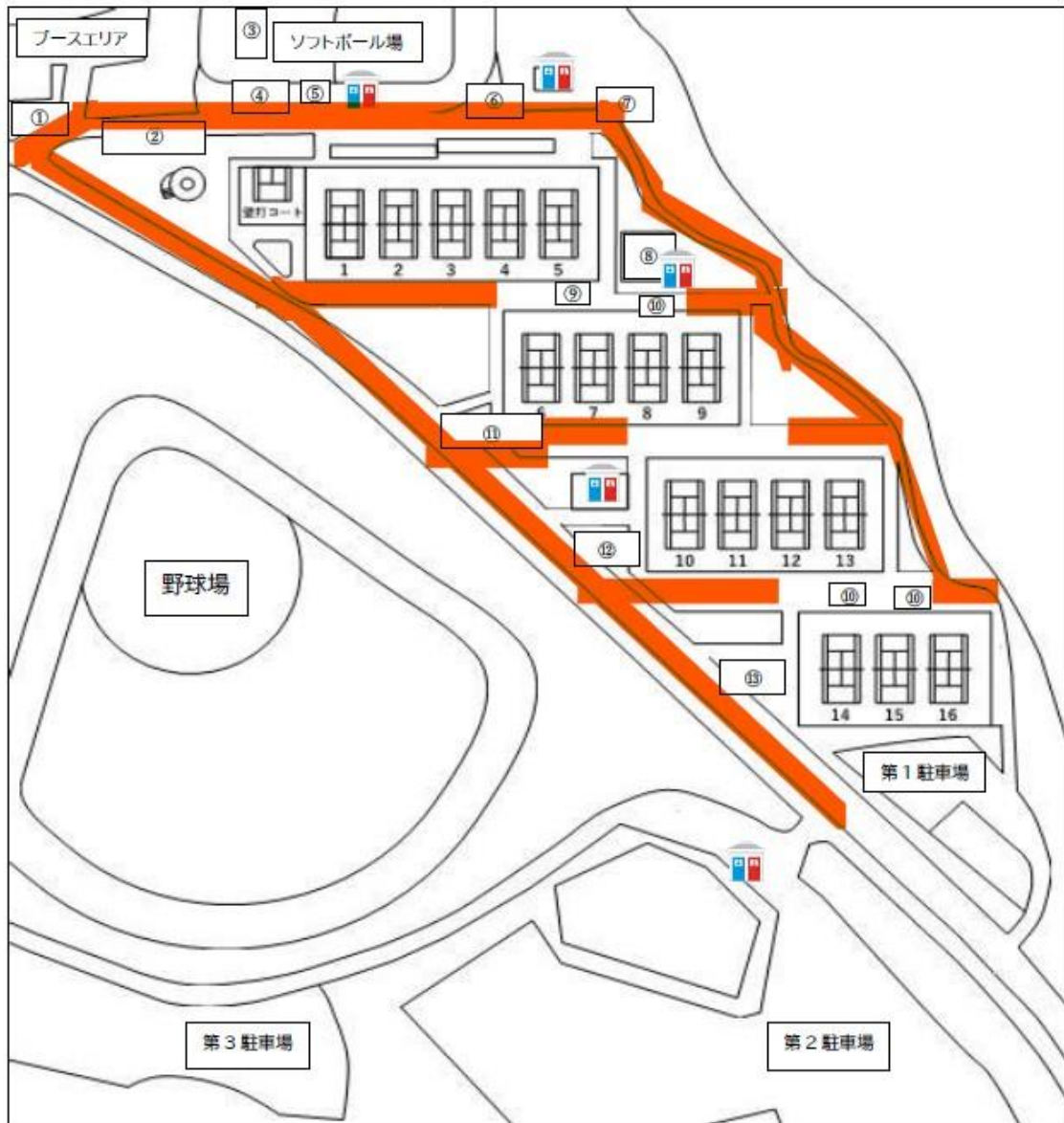
① 春野総合運動公園テニス場

※およその入場人数（最大）

参加選手：約 330人 登録選手以外：約 160人

監督・引率責任者：約 110人 競技役員：約 100人 補助員：約 120人

(会場図 (エリア分け表示) オレンジ色のエリアが一般観客エリア)



- ①ブース ②総合受付 ③補助員控えテント(審判・コート会場) ④弁当引換所 ⑤トーナメントボード
 ⑥審判控えテント ⑦休憩テント ⑧1F:選手受付・本部 2F:全国役員・来賓・視察 ⑨オフィシャルボード
 ⑩選手用テント ⑪救護ユニットハウス・トレーナーテント ⑫報道用テント ⑬インハイTV用テント

〈会場全体〉

人の出入りが可能な範囲(図中太線)をロープ等で封鎖(認められた者=ネックホルダーを持っていない者の入場は不可)。ただし、会場と接するが、遊歩道になって封鎖するのが難しい場所がある。そこには、「テニスコートにお越しの方は必ず総合受付を通過してください」という看板を設置する。

〈総合受付〉

- ・関係者(選手、監督・引率責任者、学校関係者、競技役員など)の入場時における健康チェックアプリや入場許可証、IDネックホルダーの点検を行う。
- ・選手・監督(ブロック別)と関係者、その他の者のゲートをそれぞれ設け、確認を行う。

〈選手受付・オーダー用紙受付〉

- ・競技進行係(窓口担当2名)が、1つの窓口でメディカルチェックシート(熱中症対策)のチェックと回収、もうひとつの窓口でオーダー用紙(※団体戦のみ)の確認・渡し作業を行う。
- ・窓口には選手と担当係員の間にはアクリル板を設置し、担当係員はマスクを着用したうえで業務にあたる。

〈弁当引換所〉

- ・総務係（弁当担当3名程度）が、マスク・医療用手袋を着用し業務にあたる。
- ・学校ごとに代表者が、弁当の受け取りと食後の空箱の受け渡しを行う。

〈選手待機場所〉

- ・選手の密集状態を避けるため、間隔を意識できるような設置物を置く。
- ・密集や密接を注意喚起する掲示物を目に入りやすい場所に複数掲示。
- ・総務係と会場係が見回り、注意を呼びかける。

〈観客エリア〉

- ・密集や密接を避けるため、エリア分けをする。
- ・拍手のみの応援とする内容の掲示物を複数掲示。
- ・ローピング、会場係が注意を投げかける。

〈補助員待機場所〉

- ・審判補助員担当は待機所で業務（本部と無線で連絡を取り合いながら、審判を担当するコートに向かわせるなど）にあたる。
- ・その他の補助員担当は、つねに待機場所内の換気に心がけ、補助員生徒が密集しないように注意喚起を行う。
- ・その日の業務開始前と開始後には、ドアノブやイスなどの消毒作業を行う。

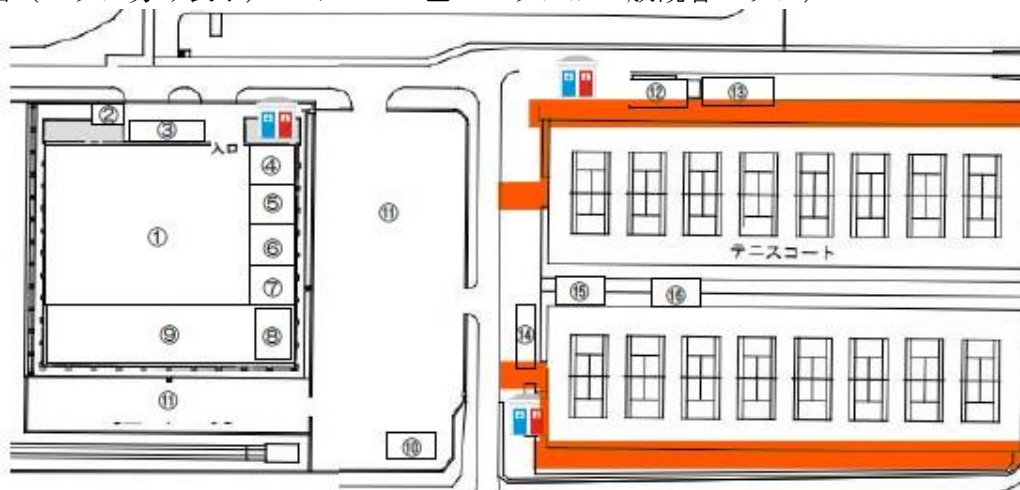
②東部総合運動場テニスコート

※およその入場人数（最大）

参加選手：約 330 人 登録選手以外：約 160 人

監督・引率責任者：約 110 人 競技役員：約 100 人 補助員：約 120 人

（会場図（エリア分け表示） オレンジ色のエリアが一般観客エリア）



- | | | | | | |
|--------------|---------------------|---------|------------|-------------|----------|
| ①選手・監督待機所 | ②弁当引換所 | ③総合受付 | ④総務待機所 | ⑤RU待機所 | ⑥報道待機所 |
| ⑦インターハイTV待機所 | ⑧審判係 | ⑨その他 | 補助員待機所 | ⑩ゴミ集積テント | ⑪大会役員駐車場 |
| ⑫1F:救護・更衣室 | 2F:全国役員・来賓・視察(北運管棟) | ⑬トレーナー室 | ⑭オフィシャルボード | ⑮OP、試合結果ボード | ⑯選手受付・本部 |

〈会場全体〉

人の出入りが可能な範囲（図中太線）をロープ等で封鎖（認められた者＝ネックホルダーを持っていない者の入場は不可）。ただし、会場と接するが、遊歩道になって封鎖するのが難しい場所がある。そこには、「テニスコートにお越しの方は必ず総合受付を通過してください」という看板を設置する。

〈総合受付〉

- ・関係者（選手、監督・引率責任者、学校関係者、競技役員など）の入場時における健康チェックアプリや入場許可証、IDネックホルダーの点検を行う。
- ・選手・監督（ブロック別）と関係者、その他の者のゲートをそれぞれ設け、確認を行う。

〈選手受付・オーダー用紙受付〉

- ・競技進行係（窓口担当2名）が、1つの窓口でメディカルチェックシート（熱中症対策）のチェックと回収、もうひとつの窓口でオーダー用紙（※団体戦のみ）の確認・渡し作業を行う。
- ・窓口には選手と担当係員の間にはアクリル板を設置し、担当係員はマスクを着用したうえで業務にあたる。

〈弁当引換所〉

- ・総務係（弁当担当3名程度）が、マスク・医療用手袋を着用し業務にあたる。
- ・学校ごとに代表者が、弁当の受け取りと食後の空箱の受け渡しを行う。

〈選手待機場所〉

- ・選手の密集状態を避けるため、間隔を意識できるような設置物を置く。
- ・密集や密接を注意喚起する掲示物を目に入りやすい場所に複数掲示。
- ・総務係と会場係が見回り、注意を呼びかける。

〈観客エリア〉

- ・密集や密接を避けるため、エリア分けをする。
- ・拍手のみの応援とする内容の掲示物を複数掲示。
- ・ロービング、会場係が注意を投げかける。

〈補助員待機場所〉

- ・審判補助員担当は待機所で業務（本部と無線で連絡を取り合いながら、審判を担当するコートに向かわせるなど）にあたる。
- ・その他の補助員担当は、つねに待機場所内の換気に心がけ、補助員生徒が密集しないように注意喚起を行う。
- ・その日の業務開始前と開始後には、ドアノブやイスなどの消毒作業を行う。

③練習会場

〈受付など窓口〉練習会場担当2～5名（補助員含む）

- ・検温（非接触型を常備）、手指消毒、IDカードの点検を行う。
- ・受付担当は施設内の巡回も行い、密集・密接の回避の注意喚起や施設内の換気に心がける。
- ・業務の開始前と終了時に、ベンチ、ドアノブなどの消毒を行う。

2. シーンごとの対策および対応

① 来会の受付

〈団体戦〉

7月28日～30日の春野総合運動公園テニス場か東部総合運動場テニスコート

〈個人戦〉

7月31日～8月3日の春野総合運動公園テニス場か東部総合運動場テニスコート

マスクを着用したうえで、以下の業務にあたる。

- ・関係者（選手、監督・引率責任者、学校関係者、競技役員など）の入場時における健康チェックアプリや、IDネックホルダーの点検を行う。
- ・選手・監督（ブロック別）と関係者、その他の者のゲートをそれぞれ設け、確認を行う。

- ② 選手の入場時・・・総合受付係（健康チェック担当4～5名、ネックホルダー担当1～2名、整列担当1名）の業務と注意事項
- (ア) 健康チェックアプリや入場許可証点検
 - (イ) ネックホルダーの受け渡しや確認をする
- ③ 選手の受付時・・・競技進行係（窓口担当2名）の業務と注意事項
- (ア) メディカルチェックシート（熱中症対策）の回収とオーダー用紙（※団体戦のみ）のチェック
 - (イ) 窓口には選手と担当係員の間にはアクリル板を設置し、担当係員はマスク・医療用手袋を着用したうえで業務にあたる。
- ④-1 競技中・・・競技進行係（窓口担当2名と事務担当2～3名）の業務と注意事項
- (ア) 受付窓口で※SCU とのスコアシートの受け渡しをする窓口担当係員は、マスク着用したうえで業務にあたる。
※ソロチェアアンパイア：生徒の審判補助員
 - (イ) 窓口担当2名、返却された審判用具（クリップボード、筆記具、ストップウォッチなど）の消毒を行う。
 - (ウ) 事務担当係員は、マスクを着用のうえ業務にあたる。
- ④-2 競技中・・・※RU
- (ア) つねに試合中あるいは試合直後の選手の体調変化に気を配る。
 - (イ) 観戦者がマスク着用の上、隣同士の距離を十分にとっているかを見回る。
 - (ウ) 試合中に体調不良の選手が出た場合に対応をする。
※RU：ロービングアンパイアの略。今年度は、試合中のコート周辺における競技上のパトロール業務・通常のレフェリー業務に加え、試合中に考えられるコロナ対策も業務とする。緊急時に備えて医療用手袋を携行。

【観戦者のなかに体調不良者を見かけた場合の対応】

- ・救護室へ案内し常駐する医師の指示を受ける。
- ・その場での対処が必要そうであれば、他の競技役員をとおして救護室に連絡をとり、医師に患者のもとに来てもらう。救護係や他の競技役員と協力して担架で救護室に搬送する。
- ・本部へ連絡を入れ、連絡を受けた本部は実行委員会へ報告する。

【試合中あるいは試合後、選手が体調不良になった場合の対応】※団体戦であればその対応は続行

- ・選手・監督から容態を聞き、医師に来てもらうべきか判断する（選手の様子によっては医師にコートサイドでの待機を要請）。
- ・選手自身で救護室に行くことができない時には救護室に連絡して医師に来てもらう。また、救護係と協力して担架で救護室に搬送する。
- ・本部へ連絡を入れ、本部の指示を受ける。
- ・団体戦の試合中であれば、次の対戦の準備をさせるが、その際にはベンチ、審判台およびタオル置き消毒を行う（担架等を使用した場合にはそれらも消毒）。

④-3 競技中・・・記録・報道係（運営本部での業務 2～3名）

- (ア) 人との接触が少ない業務ではあるが、常にマスク着用の上業務にあたる。
- (イ) オフィシャルボードに試合結果などを掲示する際には、手指消毒を念入りに行ったうえで業務にあたる。

⑤ その日の全競技終了後

- (ア) 入り口や競技中は封鎖してあったその他の出入り口をすべて退場用に解放する。
- (イ) 退場の際に人が密集しないように、競技役員全体で声かけや誘導を行う。
- (ウ) 役員総出で、人が接触した可能性があるあらゆる物の消毒作業を行う。

⑥ 開会式および監督連絡会

(高知県立県民文化ホール 7月27日 監督会議 13:30～14:30 開会式 15:30～16:30)

- (ア) 入場口と退場口を分け、入退場者が交錯しないようにする。
- (イ) 入場口に手指消毒用ポンプを置き、係員で検温を行う。
- (ウ) 隣りとの距離を1席以上離して座席を指定する。
- (エ) マイクを複数用意する。
- (オ) 閉会後に、机・イス・ドアノブなどの消毒を行う。

⑦ 表彰式 (7月30日団体戦、8月3日個人戦 競技終了後、春野運動公園室内練習場)

- (ア) 事前に優勝旗・優勝カップなど使用する備品(イス、机、マイクなど)の消毒を行う。
- (イ) 主催者側が挨拶などを行う場所(マイク位置)と選手席との間は2m以上の距離をとる。
- (ウ) 配置するイスの間隔は1m以上とする。
- (エ) 授与者はマスクを着用し、選手の体に触れることがないように賞状等の授与を行う。
- (オ) 終了後、使用した備品の消毒を行う。

⑧ 割当練習 (7/25～8/1)

- (ア) 受付に検温(非接触型を使用)、手指消毒、IDカードの点検を行う。また、緊急時に備え、医療用手袋を携行。
- (イ) 定期的に施設内の巡回も行い、密集・密接の回避の注意喚起や施設内の換気に心がける。
- (ウ) 各校・各選手に割り当てられた練習時間が終了するたびに、ベンチの消毒を行う。また、業務全体の開始前と終了時に、ベンチ、ドアノブなどの施設全般の消毒を行う。

【練習会場で体調不良者が出た場合の対応】

- ・選手・監督から容態を聞き、医師に来てもらうべきか判断する。
- ・練習会場担当は、大会本部に連絡を入れ指示を受ける。
- ・大会本部は実行委員会に報告し、指示を受ける。
- ・熱中症の可能性のある場合には、冷房の効いた部屋等に担架などで搬送する。その際、マスク・医療用手袋を着用のうえ、出来るだけ選手の体に触れないように注意する。

4. その他の注意事項

① 手洗い場所

手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること。

② 会場内の不特定多数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること。

③ 本部棟やクラブハウスなどの室内の換気には十分に注意をすること。

④ 洗面所

(ア) トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー、便座、便器蓋の表と裏側等）については、こまめに消毒すること。

(イ) トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示（掲示）すること。

(ウ) 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること。

⑤ ゴミの廃棄

(ア) ゴミは各自持ち帰らせること。

(イ) 特に鼻水、唾液などが付いたごみ（マスクなども）は絶対に放置しないこと。

⑥ 選手は試合中、以下の事項を遵守すること。

(ア) 十分な距離の確保

・ポイント間（ポイントとポイントの間）は対戦相手、パートナーとの距離を2メートル以上確保すること。

・試合の始めと終わりの挨拶は握手ではない方法で行うこと。

・エンドチェンジの際も対戦相手、パートナーとの距離を2メートル以上確保すること。

(イ) ラケットや自らの試合で使用するボールなどプレイに必要なもの以外には、コートサーフェスも含めできるだけ手で触れないこと。

(ウ) タオルの共用はしないこと。

(エ) タオルは手が触れる面と顔に触れる面を使い分けること。

(オ) ラケット・水筒をはじめとする用具をパートナーや対戦相手と共有しないこと。

(カ) 咳、くしゃみの際は腕で口を覆うこと。

(キ) 唾や痰をはくことは極力行わないこと。

※テニスは社会的距離が確保できるスポーツですのでセルフジャッジ5原則は通常通り適用

⑦ メディカルコートコール（MT、MTOなどの際）

(ア) 選手に触れる前に手指を消毒する。できる限りグローブをつける。

(イ) 聞き取りの場合は顔と顔の距離に注意して、お互いの飛沫感染を避けるため正面を避ける。